

ANGELUS



サン＝テミリオン、2019年9月25日

2019 - ル・フランボワイヤン (LE FLAMBOYANT)

アンジェリユスでは、9月18日よりぶどうの若樹から収穫を開始。メルロに関しては、アルコールと酸味のバランスを考慮し、翌月曜からの収穫となりました。

春の間に土壌が蓄積した水は、7月1日に入ってからすぐに始まった猛暑をやり過ごすために非常に重要なものとなりました。永遠に終わらないのではないかとと思われるほどの驚くような暑さ、乾燥、強い日差しに見舞われた夏。その夏の間も、アンジェリユスの粘土石灰質のテロワールは、信じられないような働きで貯水し、途切れることなく給水し続けたのです。

ビオロジック農法に転換してから2年目となるこの年、チームの素晴らしい能力のおかげで、基準値以下の銅含有値を遵守することができました。アンジェリユスのぶどう畑は素晴らしいです。日曜、そして週はじめの雨のおかげで、フェノールの成熟がより改善され、ぶどう液の糖分のバランスも最適化されました。

今日、大きな情熱をもって収穫されるメルロは、その味わいも、ぶどうの皮の厚みも、アロマも、最高の出来栄です。まるで伝説のミレジムになる可能性を秘めたクオリティであることを予言しているかのよう。

ここ2週間が好天に見舞われ、カベルネ・フランとカベルネ・ソーヴィニオンが静かに熟成を迎えてほしいと願うばかり。ボルドーの歴史に残る新たなミレジムの誕生かもしれない、今後も目が離せません。



1列目中央に、ユベール・ド・ブアール・ドラフォレと
エレヌ・グルニエ・ド・ブアール。



2019年チームに囲まれた、
ステファニー・ド・ブアール＝リヴォアルと
ジャン＝ベルナル・グルニエ、
ユベール・ド・ブアール・ドラフォレ。

「今から52年前、1967年のぶどう収穫の日、私の父であるユベール・ド・ブアールは、従姉妹の
エレヌ・グルニエ・ド・ブアールとともに収穫の様子を見て学び、やがて1985年に経営を任されることとなります。
それから今まで、「革命」と言っても過言ではない改革を経て、アンジェリユスは卓越したぶどう栽培者として
頂点に立ちます。こうしてアンジェリユスが類稀なテロワールとなり得たのも、一族と、
それを支えるチームの揺るぎない情熱と努力があったからこそです。
2019年は、ユベール・ド・ブアールにとって35番目となる記念すべきミレジムです」

ステファニー・ド・ブアール＝リヴォアル